



2025年、世界では3億500万人*が緊急人道支援を必要としています。長期化する紛争や頻発する自然災害などの大規模災害により日本の人口のおよそ2.5倍の人々が助けを求めています。

OCHA（国連人道問題調整事務所、United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs）は、人道危機にさらされた人々の命を救い、保護するために国際的な人道支援活動を調整しています。人道支援の基本原則である人道、公平、中立、独立といった原則が尊重され、各国政府、国際機関、市民社会組織、赤十字社・赤新月社や民間企業等がそれぞれの強みを活かし、連携しつつ支援を行うための環境整備に尽力しています。

例えば、大きな混乱のなかにある被災地で、支援に携わる諸団体が優先順位を持って迅速に活動するために、ニーズの全体像を把握し、支援状況の分析を提供しています。また、戦闘が激化する地域において一般市民や人道支援要員の安全を確保すべく、国連安全保障理事会などへ働きかけて国際人道法の遵守を訴え、現場では非国家主体の武装集団を含めた、すべての当事者との対話に奔走。さらに、人道支援の基本原則に則った基金運用を通して、被災地の最前線で支援にあたる諸団体に活動資金を助成しています。

OCHAが提供する様々な人道支援の枠組みは、2024年、ガザ、ウクライナ、スーダン、ミャンマーといった世界の主要な人道危機において、1億1,600万人へ食料、医療救護、保護、水と衛生などの支援を届けました。また、支援団体間の連携を促進する中で、増加をたどる国内避難民とその窮状に対応するための政策策定や、防災の観点を取り入れた緊急援助といった創造的な試みを促進しました。

人道ニーズが拡大する一方で、人的、資金的な資源は限られており、より効果的で効率的な支援が求められています。OCHAは、あらゆる支援が救命に活かされ、誰一人取り残されないよう、被災地で支援の調整に取り組むとともに、国際社会の人道支援制度の改善強化を続けて参ります。

* OCHA「2025年世界人道概況 (Global Humanitarian Overview)」

写真: UN/Albert González Farran
2024年6月スーダン・ダルフル地域